

今こ子防災隊 まちづくりプロジェクト

～災害に強く 誰にでも住みよいまちへ～

1月

11 住み続けられるまちづくりを



ぼうさい甲子園の総括として、子供たちに冬休みの課題作文に「ぼうさい甲子園で1位を取るために必要なこと」を考えてもらいました。防災に関する取組を一生懸命取り組んできたことやどうすれば上尾市が災害に強いまちになるかを考えている様子が伺えます。

今泉小学校は、共働きのご家庭が多いことと地域住民、スーパ―や公共施設を巻き込んだ活動が足りないからではないでしょうか。地域住民との交流、公共施設などを巻き込んだ大規模なやり方をしないと1位にはならない気がします。

共働きの多い今泉小学校ならではのやり方をしたいと思っています。例えば、両親の会社を巻き込んだ防災訓練、その際に連絡手段、それぞれがどこに避難すべきか調べ上げおさまった際の家族の話し方など議論したり行ったほうがいいと思います。僕の母が聞いた話だと、そういう避難訓練も必要だと言っていました。あとは、地域住民、公共施設などの方々に今泉小学校の防災訓練の勉強はこうして行っていますということをお伝えしたり、体育館などに招いたりして発表するのでもいいと思います。実際にNHKでやっていた学校がありました。そのときに、意見を交わしたりしていました。僕の祖父と母と、いとこが能登震災の際に、学校で教えている避難方法の他に地域を巻き込んだ講座みたいなのを子どもたちと聞いたほうがいいと言っていました。そうすることによって地域住民の方々が助け合ったり出来るし、どんな些細なことを見逃したりしない。と、僕達に語ってくれました。持ち物とかもその講座で再確認できるし、色々なことがわかったりするのではないのでしょうか。とにかく僕が言いたいのは地域を巻き込んだ講座を開く、両親の会社を巻き込んだ訓練、と大規模なことをしないと1位に出来ないと思いました。

今泉小学校の足りないところは大きく二つあると思います。一つ目は、活動に六年生しか関わってないということです。受賞校の多くは、学校全体が防災に対する活動を行っているのに対し、今泉小学校は主に六年生しか活動に関わっていません。二つ目は、地域の人の関わりが他校より浅いということです。ぼうさい甲子園に訪れるまでは地域の人の交流も少しは行っていると思っていますが、他校は生徒主催でイベントを開催し、地域の人を招待するなど生徒が自らの行動力で様々なことを行っている姿に圧倒されました。

今泉小学校は六年生と卒業生しか防災活動に関わっておらず、他の学年に活動のことはあまり広まっていません。まずは、学校全体に六年生の取り組みを伝え、できることを行ってもらい大きなことを立ち上げるときに協力してもらえ体制を整えておく必要があると思います。また、今泉小学校は取り組みが学校内でとどまっているため、地域主体のイベントを行い、地域をあげての取り組みをするべきだと思います。

今泉小学校の課題

① 地域とのつながりが十分とは言えない

② 災害を知らないことによる説得力や学習者の実感が伴っていない

解決法

① 「地域とのつながりが十分とは言えない」に付いての解決法は、3組が行っていたマンホールトイレの設置を地域の方に教えるなどの活動のように、それぞれのクラス又は班で行っている活動についての説明や災害が起こったときにやるべきことを教える会などを地域の方にも参加してもらえような形でいい、地域の方に自分たちの活動を知ってもらえただけでなく、行ってもらうことで地域の防災力に向上につながり、地域との繋がりができるのではないかと考えました。

② 「災害を知らないことによる説得力や学習者の実感が伴っていない」についての解決法は、自分たちが体験することはかなり難しいので、実際に体験した人のお話を聞いたり、実際の映像を閲覧したりなどの時間を取るのいいと思います。そういった災害の映像などは理科の授業などでも閲覧し、授業としての認識でしかないの1年生からなどにも実際の様子を見たり聞いたりすることで、小さい頃から災害についての様子を知ることができ、地域の防災についてなどを考える良い機会になるのではないかと考えました。

私は、来年以降に今泉小学校がぼうさい甲子園で1位を取るために必要な事として、その課題は主に2つあると思います。

その課題とは、

① 活動の深まり

② 実際、市民の防災意識が高まっていると言えるのか成果が不透明です。

まず、①「活動の深まり」という点では、チーム一つの活動が中途半端になっていることが課題となっています。確かに、プレゼン資料や物を作ったり、チームで何か目的に応じて活動する面はよくできていると感じましたが、活動が中途半端になっていることによって、その活動を地域に広めたり、地域の方々の防災意識を高めるという点に関してはあまりできていないと感じました。最終目標を明確に決めて、上尾市に防災意識を高めるという点にも向き合っていくことが必要だと思いました。

また、②「実際、市民の防災意識が高まっているのか成果が不透明」という点では、私達の活動による上尾市の防災意識の向上があまり見られないことが課題となっています。災害が発生する前に、災害に備えるための準備や対応の重要性を地域の方々に理解してもらう必要があります。そのためには、私達の総合的活動を地域に広める、または知ってもらうのが鍵となります。例として、三組のマンホールトイレは、今泉小学校にお越しいただいた地域の方々にマンホールトイレの設置方法などを教える活動をしていただいたように、実際に自分たちの活動を説明したうえで、地域の方々と防災に触れ合えるきっかけになると思います。

1月21日(火)の毎日新聞の朝刊(予定)で今泉小学校の防災に関する取組についての特集が組まれることになりました。12月の記事よりも大きく取り上げてくださるようです。

